

そこが知りたい C 型肝炎のベスト治療 インターフェロンを中心に

銭谷幹男, 八橋 弘, 柴田 実 編

＜書評者＞ 林 紀夫 (大阪大学大学院教授・消化器内科学)

わが国には、約 200 万人の C 型肝炎ウイルスキャリアが存在すると推定されており、2008 年 4 月より C 型肝炎治療に対する医療費の公的助成制度も始まるなど、国家レベルでの対策が進められている。C 型肝炎治療は、インターフェロン単独治療からリバビリンの併用、ペグインターフェロンの開発を経て、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法が標準治療となり、HCV 排除率は、難治例といわれる 1 型高ウイルス量で約 50%、それ以外では約 80%と、C 型肝炎全体では 6～7 割の症例で治癒が得られるようになった。同療法の保険収載の後、多くの症例のデー

タが蓄積され、治療効果や合併症などについて一応の見解が得られたと考えられる現在、その治療に携わるわれわれ医療者には、新しい治療法を十分に理解するだけでなく、個々の症例への治療適応を判断し、適切な治療を行うことが求められる。

今回、医学書院より、銭谷幹男先生、八橋弘先生、柴田実先生の編集による新刊書『そこが知りたい C 型肝炎のベスト治療』が刊行された。本書は肝疾患治療のエキスパートの先生方により執筆され、肝疾患患者を診療するうえで必要かつ十分な情報が提供されている。内容としては、C 型肝炎の

臨床病態と検査方法、治療法の概説だけではなく、個々の症例への治療対応などが詳しく取り上げられているなど、日常診療において臨床医が患者と対面した場合に十分に対応できるように解説されており、研修医、レジデントにとどまらず、実地医科、消化器内科専門医の先生方にも、十分参考にしていただける本に仕上がっている。本書が、C 型肝炎治療に携わる多くの先生方の診療の一助となり、多くの肝疾患患者が最適の治療を受け、肝疾患の治癒へ、ひいては肝癌撲滅へつながることを祈念する。

●B5 頁 212 2009 年
定価 3,675 円
(本体 3,500 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-00738-2]
医学書院 刊